

■ 全体講評

今回の公開模試の傾向として、午後Ⅰの記述式試験では得点が底上げされていること、午後Ⅱの論述式試験では論文の体裁が整っている解答が多いという点を挙げるすることができます。

以上を踏まえると、試験対策が比較的しっかりと進んでいることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して、得点力をアップし、より確実な合格を目指してください。

■ 午後Ⅰ 記述式試験

全体の得点力の底上げはできていますが、60 点に満たない解答もあります。記述式試験において 60 点を突破するために留意すべき点を、記述式問題別に挙げておきます。具体的には、各問題の講評を参照してください。

問 1 物流業務の改善

- (1) 問題文中のキーワードを意図的に使って解答を作成する
- (2) 問題文中のキーワードを、そのまま使用して解答を作成する

問 2 購買管理システムの設計

- (1) 過去問題をしっかり学習する
- (2) 問題文にあるキーワードを使って解答する

問 3 固定資産管理システムの改善

- (1) 問題文に書いてある漢字を、誤った漢字で解答用紙に書かない
- (2) 解答は問題文の記述にならって書く
- (3) 解答は問題文の記述の詳しさに合わせて具体的に書く

問 4 宅配便荷物受取システムの開発

- (1) 設問文の条件を、全て正確に満たすように解答を作成する

直前の内容と重複する部分もありますが、記述式問題を解く上での留意点を、次に挙げておきます。

(1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、確実に得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既に書いていると思った解答も、全ての解答条件を満たしているか、確認するようにしましょう。

(2) 設問の解答条件を全て満足する解答を作成する

解答条件のうち、特に「～の観点から」という条件は、必ず満たすようにしましょう。

(3) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけで、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で書かれていないかもチェックしましょう。

■ 午後Ⅱ 論述式試験

論述式問題では、基本的な部分ができている、あるいは、論文としての体裁が整っていない解答がありました。次の点に留意してください。

(1) 計画やシステムの名称は例にならって書く

質問事項において、最初に問うている 30 字が計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例にならって修飾すること、例と同じ語尾になること、も大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、漏れなく回答するようにしましょう。

(2) 論文は 1 枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くと、双方のページに字が写るので、論文は 1 枚ずつ書くことよいです。

(3) 事例の詳細を書く

一般論を書いているのは、合格は難しいです。「一般的には～」などと書かないようにしましょう。「～という～の特徴を踏まえて」など、論述の題材とした事例の特徴を踏まえて論旨展開をすることが重要です。

その他、留意すべき点を次に挙げます。

- ① 禁則処理をする
- ② 箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない
- ③ 「いただく」「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない
- ④ 「思う」は使わない
- ⑤ 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない
- ⑥ 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない
- ⑦ 略字を書かない

以上、細かいポイントですが、このような点に着目して採点されるケースもあると考えてください。

次に午後の記述式試験の詳細な講評です。

<午後Ⅰ>

問 1 物流業務の改善

【講評】

問題文中のキーワードを意図的に使って解答を作成しましょう。[設問 2] (1) の解答に「先に入荷した商品」という解答がありました。解答者は分かりやすい解答を

目指して、このような解答になったと推測できます。しかし、本番の試験では採点を標準化するために、キーワードによる採点が行われると考えられます。したがって、「製造ロット番号」というキーワードのない解答は趣旨が合っていない、不正解としました。

また、問題文中のキーワードを使う場合、言い換えせずそのまま使用して解答を作成しましょう。設問 1、設問 2 において、「製造ロット番号」と書くべきところを「ロット番号」、「製造ロット」と書いている解答が散見されました。本試験の難易度の低い設問では、採点基準が厳しくなり、得点できない可能性があります。問題文のキーワードは正確に活用しましょう。

【設問 1】

- (1) 「棚割情報」というキーワードを用いた解答であっても、出荷の仕方について言及していない解答は、部分点としました。
- (2) 「先に入荷した商品」という解答がありました。厳しいですが、問題文中にある「製造ロット番号」というキーワードのない解答は趣旨に沿っていても不正解としました。

【設問 2】

- (1) 「単一の製造ロット番号では数量が足りないケース」、「新旧の製造ロット番号の商品が両方もとも数量不足のケース」という解答については、問題文に記述されている、解答から除外するケースである「新旧の製造ロット番号が混入するために納品できないケース」と同じ趣旨と判断し、厳しいですが不正解としました。

「商品が製造中止になったケース」という解答がありました。問題文に「しかし、この方法を採用すると、～が加わるために」とあります。「加わる」という点に着目すると、「商品が製造中止になったケース」は以前からある出荷できないケースなので、厳しいですが、不正解としました。

- (2) 設問文に「〔合併後の全体業務構成〕について」と書かれていることを根拠に、〔合併後の全体業務構成〕の(3)③及び(3)⑤に記述されている内容から導ける解答を正解としました。

【設問 3】

- (1) 「道路渋滞情報」と「到着予定時刻」のうち、片方も盛り込まれていない解答は、厳しいですが不正解としました。
- (2) 「運行記録情報」と「標準走行時間」のうち、片方も盛り込まれていない解答は、厳しいですが不正解としました。
- (3) 語尾が「計画する」など、「燃料消費量の少ない案に決定する」旨を明示していない解答は、厳しいです

が部分点としました。

【採点基準】

【設問 1】

- (1) 「棚割情報」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 4 点、その他は、基本的に 0 点。

【設問 2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、完答のみで部分点なし、その他は、基本的に 0 点。

【設問 3】

- (1) 「道路渋滞情報」、「到着予定時刻」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 「運行記録情報」、「標準走行時間」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (3) 「配送計画案」、「燃料消費量」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。

問 2 購買管理システムの設計

【講評】

過去問題をしっかり学習するようにしておきましょう。設問 1 は、平成 23 年システムアーキテクト午後 I 問 2 に類似した問題です。本試験の午後 I 記述式試験の過去問題を解けることが、次の試験の午後 I 試験突破につながると考えます。

問題文にあるキーワードを使って解答しましょう。設問 3(2)では、問題文にある「納入率」を使って、「納入率を高めるために」と書けることが重要です。

問題文に書いてある漢字を、誤った漢字で解答用紙に書かないように注意しましょう。「購買」を「購売」と 4 割くらいの方が書いています。午後 II 論述式試験でも、「論述の対象業務は購売業務である」と書かれていることがあります。同じ漢字を正しく書いたり、誤字で書いていたりする解答もあります。解答は見直しましょう。なお、午後 II 論述式試験についてですが、漢字を思いつ

かない場合は、別の言葉で書くとよいでしょう。

[設問 1]

- (1)「購買」の誤字が散見されました。「休日日数」のない解答は、厳しいですが、0点としました。計算方法を具体的に記述していない解答は部分点としました。
- (2)「基準発注ロット」のない解答は、厳しいですが、0点としました。計算方法を具体的に記述していない解答は部分点としました。

[設問 2]

- (1)正答率の高い設問でした。
- (2)本試験では「かつ」という言葉を使って、正確に解答できるようにしておきましょう。

[設問 3]

- (1)厳しいですが、部分点なしとしました。
- (2)設問文に「伝達の目的を含めて」とあるので、解答の前半に「～のために」などと書けるようにしておきましょう。
- (3)正答率の高い設問でした。

【採点基準】

[設問 1]

- (1)「休日日数」あるいは同様の趣旨の言葉を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点なし、その他は、基本的に0点。
- (2)「基準発注ロット」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点、ただし、必須キーワードのない解答は部分点なし、その他は、基本的に0点。

[設問 2]

- (1)解答例と同じ解答は各2点、その他は、基本的に0点。
- (2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各3点、ただし、部分点はなし。その他は、基本的に0点。

[設問 3]

- (1)順不同で三つのキーワードが解答例と同じものに対し4点、その他は、基本的に0点。
- (2)「納入率を高める」旨の伝達の目的を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、ただし、伝達の目的のない解答は部分点3点、その他は、基本的に0点。
- (3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点、その他は、基本的に0点。

問 3 固定資産管理システムの改善

【講評】

解答は問題文の記述にならって書くようにしましょう。具体的には、設問 4(1)において「固定・携帯区分が携帯電話である」という解答がありました。問題文を確認すると、「携帯機器は“携帯”と設定されている」という記述があります。解答では、この問題文の記述に沿って、「固定・携帯区分が“携帯”と書くようにしましょう。

解答は問題文の記述内容のレベルに合わせて具体的に書きましょう。設問 1(2)において、「照合内訳数を更新する」や「照合内訳数を増加する」という解答がありました。具体的に「照合内訳数に1を加算する」旨を解答するようにしましょう。

[設問 1]

- (1)正答率の高い設問でした。
- (2)「照合内訳数を更新する」や「照合内訳数を増加する」という解答がありましたが、部分点としました。

[設問 2]

- (1)「枝番」を指摘していない解答が散見されました。厳しいですが、部分点としました。
- (2)〔現行の固定資産管理の問題点〕の(3)の「携帯機器の資産管理において、除却りん議書を書く際に必要な所在不明の時期について、当該資産の管理担当者にヒアリングしても分からないことがある」という記述がヒントになります。この記述を基に、設問文で問われている図の属性、すなわち、移動エンティティの移動日を導きます。厳しいですが、「移動日」のない解答は部分点なしとしました。

[設問 3]

- (1)問題文の記述から二重更新される可能性がある点を読み取っていれば、得点できる設問でした。
- (2)正答率の高い設問でした。

[設問 4]

- (1)正答率の高い設問でした。
- (2)属性の数を四つ以上挙げている解答がありました。問題文の記述に従って、移動テーブルの搬入・搬出区分を主キーから外すと、主キーは、固定資産番号、枝番、移動日時になります。設問文の「代わりに別の一つの属性を一部変更した」という記述から、固定資産番号、枝番、移動日時のうちの一部を変更することになります。いずれにしても、主キーを構成する属性は三つになります。

【採点基準】

[設問 1]

- (1)解答例と同じものに対し各6点、その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

(1) 「枝番」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、ただし、「枝番」のない解答は、部分点 3 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 「移動日」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、ただし、「移動日」のない解答は部分点なし、その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

(1) 「移動登録処理」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、ただし、「移動登録処理」のない解答は部分点なし、その他は、基本的に 0 点。

(2) 「担当者テーブル」、「電子メールアドレス」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、ただし、「担当者テーブル」、「電子メールアドレス」のない解答は部分点なし、その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 順不同で解答例どおりのみ 5 点。その他は、基本的に 0 点。

問 4 宅配便荷物受取システムの開発

【講評】

設問文の条件を、全て正確に満たすように解答を作成しましょう。設問 2 では、「どのようなケースにおいて」と問われているにもかかわらず、「ケース」を明示的に記述していない解答がありました。厳しいですが、趣旨は合っていても部分点としました。

[設問 1]

チェック機能について指摘している解答は正解としました。

[設問 2]

(1) 「着荷番号」について正解としました。

(2) 「どのようなケースにおいて」と問うているので、「～のケースにおいて」などと解答していない場合は、趣旨が合っていても、厳しいですが部分点としました。

[設問 3]

(1) 正答率の高い設問でした。

(2) 正答率の高い設問でした。

[設問 4]

(1) 「住戸番号ごとに設定した」などと、パスワードを修飾していない解答は部分点としました。

(2) 不正な方法で荷物が取り出された場合に有効な自己チェック機能に関する解答は、なりすましなど、自己チェックで検出できないケースも想定できるので、部分点 3 点としました。

【採点基準】

[設問 1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

(1) 解答例と同じものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 「催促メッセージ」あるいは同様の趣旨の言葉を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、ケースを適切に記述していない解答は部分点 3 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

(1) 解答例と同じものに対し各 2 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、「パスワード」だけの解答は部分点 3 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 「荷物が取り出された」など、送信のタイミングを指摘している、かつ、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、ただし、送信のタイミングのない解答は部分点 3 点、その他は、基本的に 0 点。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格にさらに近づきましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

[午前 I・II 多肢選択式問題]

学習方法の基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

素晴らしい論文を書いている受験者に、前回不合格になった原因を聞くと、午前 II において足切りになった方が多いことが分かります。午前免除の方も、午前 II 対策は試験当日の朝、試験直前まで、継続するようにしましょう。

〔午後Ⅰ 記述式問題〕

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

〔午後Ⅱ 論述式問題〕

制限時間内に書くためには、問題文の趣旨に沿って事例の詳細を展開させるように書くことが重要です。ただし、問題の趣旨を、なぞるように書くことはやめましょう。しっかりと掘り下げて書くことが重要です。一般論を展開するのではなく、対象業務の特徴や、システムの特徴を踏まえて、論旨展開することが大切です。

本試験当日までがんばり、合格を、さらに確実にしましょう。

以上

